

## 2011 ラフダイヤモンドジュエリー コンテスト入賞者インタビュー

木下 受賞作品のこだわりの点と、今回のデザインが生まれた背景を教えてください。

石 「受け継がれるジュエリー」がテーマで、分かりやすくシンプルに伝えたいと思い、輝きを失わない星のようにいつまでも、という想いから今回の作品が生まれました。ダイヤモンドの原石がメインなので、原石の美しさを生かしながらジュエリーとしての美しさを表現するため、原石とカットされた石との異なる質感の組み合わせや色のバランスにこだわりました。

福盛 私の作品のテーマは「自分自身」です。今回、ダイヤモンドの原石を使ってデザインするのに意識したのは、「原石」という言葉です。そしてダイヤモンドには「不変な輝き」、「悠久の時の流れ」を感じていました。そこでこれらを表したデザインにしたいと思いました。イエローゴールドとプラチナで自由に流れる曲線を形作り、時の流れを表現しています。「時」に包まれているラフダイヤモンドは“自癒身”。その中で、時には揺られながらも、木が大地に根を生やすようにしっかりと生きていけるように、という気持ちを込めました。カボションカットのサファイアは宇宙を表しています。そして全体の形をサナギのようにデザインしました。

誰もが心の中に、何か輝くものを持っていると思います。それはダイヤモンドの原石のようなもの… そのままでも十分魅力的ですが、人の手によってカットされ、研磨されて、より輝きます。人も同じで、色んな人と関わることで成長していく。親から子へ、また友達や恋人に、伝えたい「心」の一つではないかと考えました。

ピンローチとして、上部だけを取り付けて揺らしたり、取り外してネックレス、またはペンダントトップとしても楽しめます。伝えたい「心」を胸元に“自癒身”意識しながらも、普段使っていて楽しんでもらえるようにデザインしました。

木下 お二人がジュエリーの世界に飛び込むと思ったきっかけは何だったのでしょうか？

石 幼少期から手を動かして遊ぶことが好きだったのもあり、NYにある美術系の大学に進みました。そこでジュエリーに出会い、

卒業後は製作の仕事に携わっていました。帰国後、宝石材についての知識を高めようと考えGIA JAPAN東京校でGGを取得しました。それまでは制作にあたってデザイン画を描くという習慣はありませんでしたが、人に(そのジュエリーのデザインを)きちんと伝えるものを表現できるように、「から勉強したい」という気持ちでジュエリーデザインクラスを受講しました。ジュエリーの世界は造形のサイズとして、時には小さな世界ですが、とても奥の深い世界だと思います。

福盛 もともとジュエリーに関心がある、という方ではありませんでしたが、耳にピアスの穴を穿けたことを機に興味を持つようになって、ジュエリーや石のことを調べるようになりました。そして、長い時間、地球で眠っていた石が人の手により磨かれ輝き、デザインされて人を魅了するジュエリーとなる、この自然と人とのコラボレーションに惹き付けられました。これまでGGデザインやイラストを描く仕事をしていましたので、デザインするということでは共通するものもありますが、Webや紙媒体なので、ずっと形として残るというわけではありません。しかしジュエリーは、良いものであれば長年愛され続け、代々受け継がれると言うものが多々あります。自分のデザインしたジュエリーを身に付けた人が幸せな気持ちになってくれたら、そして人を幸せにする、心に残るジュエリーを制作出来れば良いなあという思いを持つようになりました。

そしてまずは石のことを知ろうと、GIA JAPANでGGを取得しました。続けてジュエリーデザイン、ワックスモデリングクラスを修了しました。

木下 昨年3月の未曾有の大震災は様々な変化を我々にもたらしているのではないかと思います。例えば様々なシーンで人と人との「絆」や「その瞬間を大切にすること」が意識されるような風潮を感じます。またジュエリーにおいては、婚約、結婚される方が増えていて、その結果ブライダル関連のジュエリーの売り上げが上がっているという話も聞きますが、お二人は震災後、心境や作品等に何か変化はありましたか？あるとすればどのように変化しましたか？

石 震災後、家族や人と人との繋がりについて考えることが多くなりましたが、前向きに今を頑張るって進んでいくしかないと思います。作品に関しては震災後特に変化したことはないですが、ジュエリーを身に着ける人やそれを見る人、双方の心が楽しくなるような「想い」を造形に併せ持つようなデザインをしていきたいと思うようになりました。

福盛 今回の大震災では、多くの方が犠牲になり、未だ行方不明の方もたくさんいらっしゃいます。また、それに派生した福島原発の事故に関しては、これからどうなるのだろうと不安になります。これらについて言葉にすることは非常に難しく、ただただ祈るばかりです。以前よりも、生あるものは皆、生かされているのだと、改めて感じました。

デザインに関しては、これまでは綺麗なものを、可愛いものを、という意識の方が強かったのですが、ただ綺麗で可愛いだけではなく、テーマを持って、何かメッセージ性のあるものを、と思うようになりました。

例えば、家族や恋人など大切な人との間で、普段はそれぞれ持っているリングやネックレスが合わさると、一つの意味を成すジュエリーや、大切な人の誕生石や好きなモチーフを、自分のそれと絡めた、「絆」を意識したデザイン、宇宙や自然をテーマにしたものに、優しく暖かい「心」を感じられるような何かをプラスしたものなど、宝石の神秘的な魅力を感じながら、デザインしていきたいと思います。

木下 震災から一年近くになりますが、これからのジュエリーの「在り方」やデザイナーとしての考え方についてお二人のご意見を聞かせてください。石さんは震災後に行われた9月のJJF(ジャパンジュエリーフェア)のニュークリエイターゾーンにも参加されましたがJJFはいかがでしたか？

石 JJFに出展してよかったと思います。今まで見に行く側でしたが、出展して初めて気付くことも多く大変でした。何でもやってみないと分からないなと実感しました。前途多難ですが、これを機に自分のペースを大切に頑張っていきたいです。

私は、ジュエリーは特別なものだと考えています。ずっと身に付けていく結婚指輪や心をこめて受け継がれるジュエリー達は特に震災後の絆の大切さが見直されている今だからこそ、長く使い続けられ、かつ使う人の気持ちに寄り添うことが求められるのではないかと感じます。ジュエリーを通して誰か

を勇気づけることやかけがいのない思い出を呼びおこすことができる、「プラスの気持ち」がこめられた「モノ作り」を提案していきたいと思います。

福盛 大震災後の今、派手で豪華な宝石を身に着けるのは、悪いことではないのですが、やはりどこか、空気の読めない人だと言われるかもしれません。また、豪華すぎて普段は使えない、というのでは何だか勿体無い気もします。もちろん、持っているというだけで、気持ちに余裕を持てるというのものもあるかもしれません。

もしTP OIに合わせて形を変えられるジュエリーがあれば、眠らせておくことも無くなります。普段はパーツで楽しみ、パーティーなどの華やかな場所では豪華になって身に付けられる、というような一つのジュエリーで2Way、3Wayと、幾通りも装えるデザインならば、楽しめる時間が増えます。そうしてハイジュエリーの堅いイメージを払拭していけば、もっと身近にジュエリーを感じてもらえるようになると思います。

こんな時だからこそ、キラキラするものを身に付けて、気持ちを盛り上げたいという思いを持ってよいのではないのでしょうか。どのような時であっても、ジュエリーに対する憧れや美しいと感じる心は無くならないと思います。先に述べたように、メッセージ性のあるジュエリーで、誰かに何かを伝えていく、「ありがとう」や「がんばろう」など、人の心に訴えかけるそんなジュエリーがあれば素敵ですね。

インタビュアー  
インスタクター 木下 紀恵(きのした みちえ)



2011ラフダイヤモンドジュエリーコンテスト 佳作作品

福盛 あや子(ふくもり あやこ)現在はジュエリーデザインを手掛けるが以前はGGデザイナー。制作会社にてTV局の仕事にも携わり数多くの実績を持つが、ジュエリーが形になって残ることに魅かれGIAJAPANへ。'08年GG取得後、同年ジュエリーデザインクラス、ワックスモデリングクラス修了。現在はフリーランスのデザイナーとして”歯のペースを大切に”しながら活動。普段使いを念頭に、組み合わせで様々なイメージを楽しめるジュエリーデザインが特徴的。

写真協力 (社)日本ジュエリー協会、諏訪貿易(株)



2011ラフダイヤモンドジュエリーコンテスト 優秀賞作品

石 有里(いし ゆり)

NYの大学にて彫金を専攻。大学卒業後、現地でジュエリーデザイナーの制作アシスタントとして活動。帰国後、それまでの自分の経験を活かしつつ自分の力をさらに高められるものを求め、宝石材について学ぼうと考えるようになる。その後GIAJAPANに入学。'09年10月GGを取得、同年12月ジュエリーデザインクラス卒業。現在はリフォームやオーダージュエリーを主に手掛ける企業に所属し、デザイナーとして様々な顧客の方に対応している。